

衛研第1-20号  
平成27年 8月12日

感染症発生動向調査事業  
各関係機関の長様

埼玉県衛生研究所長

感染症発生動向調査事業週単位情報の送付について（通知）

このことについて、別添のとおり送付いたします。

担当 埼玉県衛生研究所 感染症疫学情報担当  
電話 0493-59-9325  
FAX 0493-59-9613  
e-mail p5349952@pref.saitama.lg.jp

## 感染症患者発生情報（週報）

### 埼玉県内情報 平成 27 年 第 32 週（平成 27 年 8 月 3 日～平成 27 年 8 月 9 日）

#### 今週の注目される疾患

全数把握対象疾患では、一類、二類（結核を除く）の届出はなかった。三類感染症は、腸管出血性大腸菌感染症 6 人の届出があった。四類感染症は、A 型肝炎 1 人、レジオネラ症 1 人の届出があった。五類感染症は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 人、クロイツフェルト・ヤコブ病 1 人、後天性免疫不全症候群 1 人、侵襲性肺炎球菌感染症 2 人、梅毒 1 人の届出があった。

定点報告対象疾患では、**手足口病**(16.73 12.72)の定点当たり報告数は前週より減少したが、依然多い状況にあり、今暫くは注意が必要である。保健所別では、熊谷(21.33)、春日部(15.83)、草加(14.80)保健所管内で多い状況が続いている。年齢階級別では 1 歳が最も多く、1～4 歳で全体の 71.3%を占めている。**流行性耳下腺炎**(0.88 1.23 0.94)の定点当たり報告数は 4 月以降漸増し、前年までの同時期より多い状況が続いている。保健所別では、東松山(3.60 5.75)、越谷市(2.25 3.25)保健所管内で大きく増加し、春日部(3.17)保健所管内で多い状況が続いている。**ヘルパンギーナ**(3.51 2.84)の定点当たり報告数は前週より減少したが、依然多い状況にある。保健所別では、加須(7.67)、幸手(4.67)、川口(4.31)、朝霞(3.93)保健所管内からの報告が多いほか、春日部(2.50 3.67)保健所管内で大きく増加した。年齢階級別では 1 歳が最も多く、1～3 歳で全体の 59.0%を占めている。**咽頭結膜熱**(0.72 0.74)の定点当たり報告数は前週と同水準に留まった。保健所別では、東松山(0.60 2.00)保健所管内で大きく増加し、狭山(1.47)保健所管内からの報告が多い。眼科定点対象疾患では、**急性出血性結膜炎** 1 人、**流行性角結膜炎** 33 人の報告があった。基幹定点報告対象疾患では、**細菌性髄膜炎** 1 人、**無菌性髄膜炎** 2 人、**マイコプラズマ肺炎** 4 人の報告があった。

#### <全数把握対象疾患の患者情報>

一類感染症 報告なし

二類感染症 報告なし（結核を除く）

三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 6 人（病型 患者 3 人、無症状病原体保有者 3 人、血清型 0157 4 人、026 2 人）

四類感染症 A 型肝炎 1 人（推定感染地域 国内）

レジオネラ症 1 人（病型 肺炎型）

五類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 人（菌種 *Enterobacter* sp.）

クロイツフェルト・ヤコブ病 1 人（病型 孤発性）

後天性免疫不全症候群 1 人（病型 無症状病原体保有者）

侵襲性肺炎球菌感染症 2 人

梅毒 1 人（病型 無症状病原体保有者）

1 この情報に関する御質問・御意見等がございましたら、下記まで御連絡ください。

衛生研究所 感染症情報担当者会議(感染症疫学情報担当) TEL: 0493-59-9325 FAX: 0493-59-9613

e-mail: [p5349952@pref.saitama.lg.jp](mailto:p5349952@pref.saitama.lg.jp) URL: <http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/index.html>

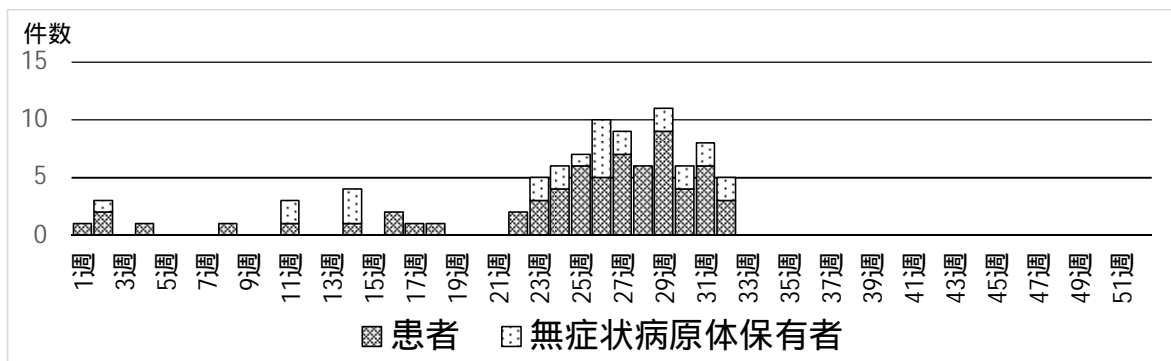
2 全国の感染症発生動向に関する情報は、国立感染症研究所の感染症疫学センターホームページ(URL: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>) で御覧になれます。

## 注目すべき疾患

### - 腸管出血性大腸菌感染症 -

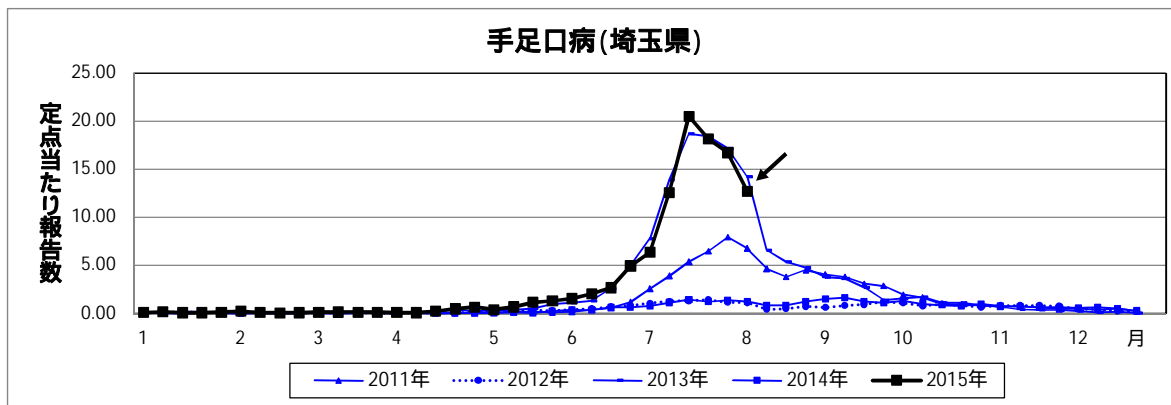
腸管出血性大腸菌感染症は、今週6人(診断週集計:5人)の届出があった。届出は第22週以降連続し、第23週以降は多い状況が続いている。第1週からの累積届出数は92人となり、病型別では患者66人、無症状病原体保有者26人で、患者が71.7%を占めている。

腸管出血性大腸菌感染症週別届出状況(診断週集計)

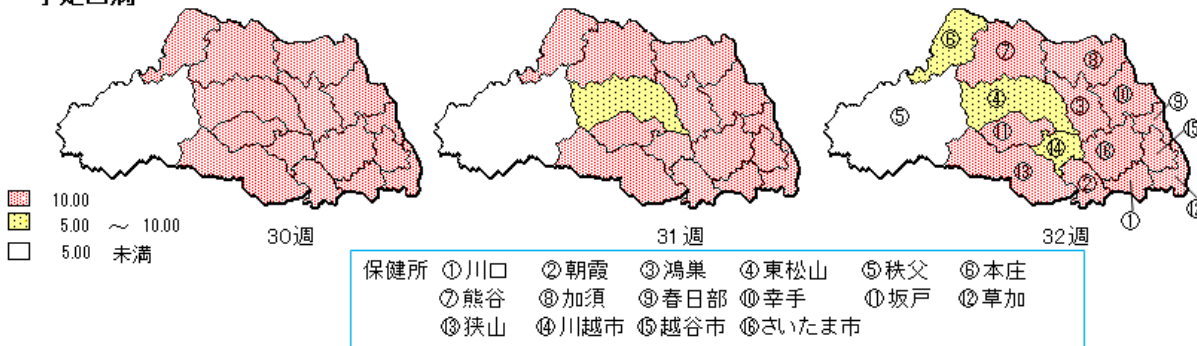


### - 手足口病 -

手足口病の定点あたり報告数(12.72)は、29週(7/13~7/19)をピークに減少に転じたが、未だ多い状況が続いている。保健所別では、秩父保健所を除く15保健所管内で定点あたり報告数5.00を上回っている。



#### 手足口病

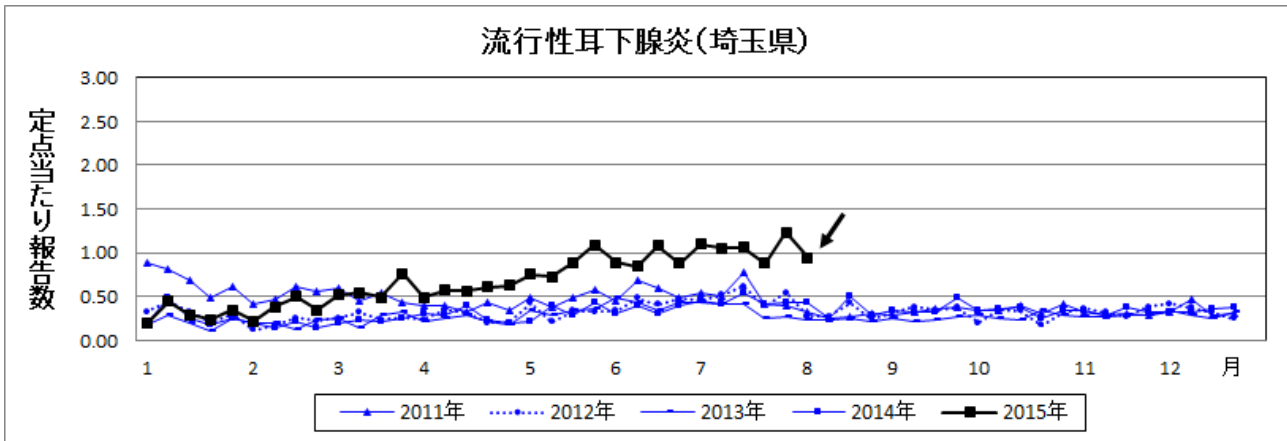


保健所別定点あたり報告数の推移(手足口病)

< 定点把握対象疾患の患者情報 >

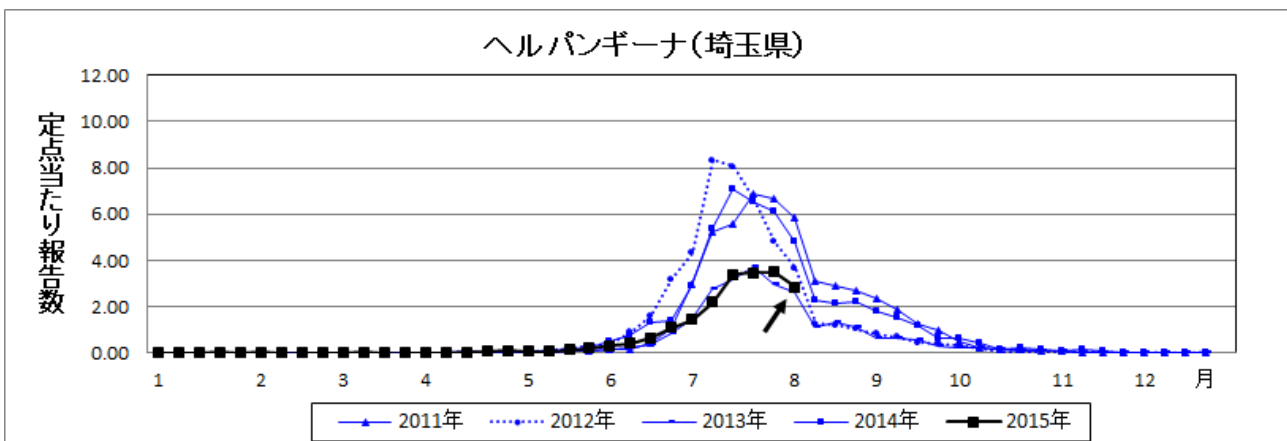
**流行性耳下腺炎**

秩父、本庄、川越市保健所を除く県内 13 保健所から報告があった。保健所別では、東松山 (5.75)、越谷市 (3.25)、春日部 (3.17) 保健所管内からの報告が多い。



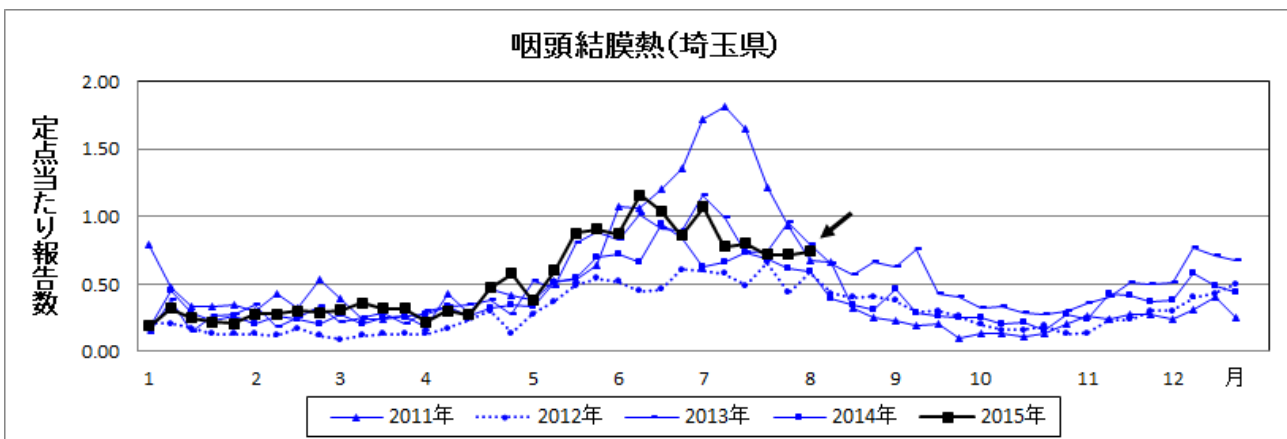
**ヘルパンギーナ**

県内全保健所から報告があった。保健所別では、加須 (7.67)、幸手 (4.67)、川口 (4.31)、朝霞 (3.93)、春日部 (3.67) 保健所管内からの報告が多い。



**咽頭結膜熱**

秩父、草加保健所を除く県内 14 保健所から報告があった。保健所別では、東松山 (2.00)、狭山 (1.47) 保健所管内からの報告が多い。



感染症発生状況(全数把握対象疾患)  
(第32週)

(2015年8月11日 15:00集計)

	今週 届出	累 計		今週 届出	累 計
<b>一類感染症</b>					
エボラ出血熱			ペスト		
クリミア・コンゴ出血熱			マールブルグ病		
痘そう			ラッサ熱		
南米出血熱					
<b>二類感染症</b>					
急性灰白髄炎			中東呼吸器症候群(MERS)		
結核*	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)		
ジフテリア			鳥インフルエンザ(H7N9)		
重症急性呼吸器症候群(SARS)					
<b>三類感染症</b>					
コレラ			腸チフス		1
細菌性赤痢		4	パラチフス		1
腸管出血性大腸菌感染症	6	92			
<b>四類感染症</b>					
E型肝炎		4	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)		
ウエストナイル熱			ニパウイルス感染症		
A型肝炎	1	11	日本紅斑熱		
エキノкокクス症			日本脳炎		
黄熱			ハンタウイルス肺症候群		
オウム病		1	Bウイルス病		
オムスク出血熱			鼻疽		
回帰熱			ブルセラ症		
キャサヌル森林病			ベネズエラウマ脳炎		
Q熱			ヘンドラウイルス感染症		
狂犬病			発しんチフス		
コクシジオイデス症			ボツリヌス症		
サル痘			マラリア		
重症熱性血小板減少症候群			野兎病		
腎症候性出血熱			ライム病		
西部ウマ脳炎			リッサウイルス感染症		
ダニ媒介脳炎			リフトバレー熱		
炭疽			類鼻疽		
チクングニア熱			レジオネラ症	1	42
つつが虫病			レプトスピラ症		
デング熱		8	ロッキー山紅斑熱		
東部ウマ脳炎					
<b>五類感染症</b>					
アメーバ赤痢		21	侵襲性肺炎球菌感染症	2	54
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)		3	水痘*		5
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	22	先天性風しん症候群		
急性脳炎		17	梅毒	1	54
クリプトスポリジウム症			播種性クリプトコックス症		5
クロイツフェルト・ヤコブ病	1	5	破傷風		2
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		8	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
後天性免疫不全症候群	1	21	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		3
ジアルジア症		1	風しん		5
侵襲性インフルエンザ菌感染症		9	麻しん		3
侵襲性髄膜炎菌感染症		2	薬剤耐性アシネトバクター感染症		1
<b>指定感染症</b>	該当疾患は無し				

水痘\* : 患者が入院を要すると認められるものに限る。

ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)再掲	B型	C型	D型	その他
累計	3			

累計は診断日で集計

\* 結核は月単位で集計、別に掲載します。

保健所	感染症発生動向調査		週情報		報告患者数		保健所別		(第32週)		平成27年8月3日~平成27年8月9日)										
	インフルエンザ #1	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	咽頭炎	咽A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 #2	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 #3	感染性胃腸炎(口ウイルス)	インフルエンザ(入院)
全	2	20	116	213	630	68	1,997	148	94	3	446	148	1	33	1	2	4	-	-	-	-
川	0.01	0.13	0.74	1.36	4.01	0.43	12.72	0.94	0.60	0.02	2.84	0.94	0.03	0.87	0.10	0.20	0.40	-	-	-	-
朝	-	6	9	43	107	2	214	12	6	-	69	11	-	3	*	*	*	*	*	*	*
鴻	-	-	8	22	57	8	210	11	10	-	59	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東	1	-	0.53	1.47	3.80	0.53	14.00	0.73	0.67	-	3.93	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山	0.05	-	1.17	0.83	4.67	0.83	14.00	1.00	0.75	-	1.17	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秩	-	-	8	4	37	1	27	3	3	-	6	23	-	2	-	-	1	-	-	-	-
本	-	-	2.00	1.00	9.25	0.25	6.75	0.75	0.75	-	1.50	5.75	-	2.00	-	-	1.00	-	-	-	-
庄	-	-	-	1	2	-	6	-	1	-	5	-	-	*	-	-	-	-	-	-	-
熊	-	-	4	2	1	2	38	1	2	-	3	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
加	-	4	5	36	88	2	192	9	6	-	28	3	1	8	-	-	-	-	-	-	-
春	-	0.44	0.56	4.00	9.78	0.22	21.33	1.00	0.67	-	3.11	0.33	0.50	4.00	-	-	-	-	-	-	-
須	-	-	5	3	-	1	60	3	4	-	46	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日	-	-	0.83	0.50	-	0.17	10.00	0.50	0.67	-	7.67	0.17	-	-	-	-	-	-	-	-	-
部	-	-	3	6	12	-	95	4	3	-	22	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-
幸	-	-	0.50	1.00	2.00	-	15.83	0.67	0.50	-	3.67	3.17	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手	1	3	4	13	9	11	122	5	1	-	42	21	-	-	-	-	3	-	-	-	-
戸	0.07	0.33	0.44	1.44	1.00	1.22	13.56	0.56	0.11	-	4.67	2.33	-	-	-	-	3.00	-	-	-	-
加	-	-	7	5	17	5	70	2	3	-	10	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
狭	-	-	1.17	0.83	2.83	0.83	11.67	0.33	0.50	-	1.67	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
草	-	-	-	6	27	7	148	11	3	-	12	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山	-	2	25	15	59	3	173	7	11	1	36	6	-	4	1	-	-	-	-	-	-
越	-	0.12	1.47	0.88	3.47	0.18	10.18	0.41	0.65	0.06	2.12	0.35	-	1.00	1.00	-	-	-	-	-	-
市	-	1	5	20	19	2	63	11	2	-	11	-	-	2	*	*	*	*	*	*	*
谷	-	0.13	0.63	2.50	2.38	0.25	7.88	1.38	0.25	-	1.38	-	-	1.00	*	*	*	*	*	*	*
さい	-	-	8	3	16	4	82	4	10	-	15	26	-	1	-	-	-	-	-	-	-
たま	-	-	1.00	0.38	2.00	0.50	10.25	0.50	1.25	-	1.88	3.25	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-
市	-	4	11	24	123	10	329	53	20	2	68	9	-	10	-	2	-	-	-	-	-
(- : 0.00)	-	0.17	0.46	1.00	5.13	0.42	13.71	2.21	0.83	0.08	2.83	0.38	-	1.43	-	2.00	-	-	-	-	-

#1 鳥インフルエンザを除く  
#2 真菌性を含む  
#3 オウム病を除く

8月 11日 13:00集計

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (第32週 平成27年8月3日～平成27年8月9日)

	年齢別																				
	合計	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
インフルエンザ #1	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	20	7	4	6	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	116	-	2	19	15	11	19	23	7	3	6	1	8	1	1	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	213	-	-	14	15	19	28	27	25	20	24	13	18	-	10	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	630	6	38	113	69	59	52	51	40	26	15	24	62	9	66	-	-	-	-	-	-
水痘	68	-	2	8	8	3	5	13	14	4	2	2	5	-	2	-	-	-	-	-	-
手足口病	1,997	19	140	567	367	273	217	155	84	50	38	20	33	3	31	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	148	-	2	5	16	13	27	23	22	13	8	10	6	-	3	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	94	2	27	57	6	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	3	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	446	3	41	118	91	54	46	27	23	9	6	8	16	1	3	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	148	-	-	2	4	12	22	31	24	15	8	14	14	1	1	-	-	-	-	-	-
合計	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
流行性角結膜炎	33	-	-	-	3	2	2	1	1	1	1	1	2	-	5	5	5	2	1	1	1
合計	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上					
細菌性髄膜炎 #2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	-	1	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 #3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(入院)インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表中の数値は各定点からの報告数 (- : 0)

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

# 全国・関東情報 第 30週

( 7月20日～7月26日 )

平成27年8月12日

インフルエンザの定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は沖縄県(4.84)、鹿児島県(0.20)、宮崎県(0.08)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は7例と前週と比較して減少し、5都県から報告があった。

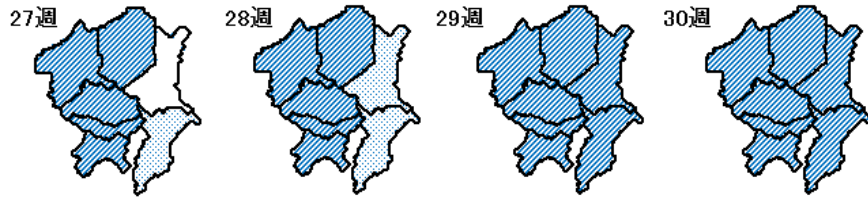
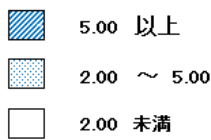
RSウイルス感染症の報告数は554例と第27週以降増加が続いている。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約82%を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第26週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は新潟県(0.93)、沖縄県(0.85)、北海道(0.80)である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は2週連続で減少したが、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は鳥取県(3.89)、長崎県(3.11)、大分県(3.06)である。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は第25週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は大分県(7.33)、宮崎県(5.61)、熊本県(5.50)である。水痘の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は茨城県(0.64)、三重県(0.60)、神奈川県(0.59)である。手足口病の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は石川県(19.24)、埼玉県(18.16)、福島県(16.93)である。伝染性紅斑の定点当たり報告数は2週連続で減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は大分県(2.22)、長野県(1.54)、佐賀県(1.52)である。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別の上位3位は沖縄県(2.79)、佐賀県(2.43)、石川県(1.48)である。

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位2位は宮城県(1.17)、石川県(1.00)、滋賀県(1.00)、香川県(1.00)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の定点当たり報告数は減少した。7道府県から10例報告があり、年齢別では1～4歳(8例)、5～9歳(1例)、10代(1例)であった。

## <関東情報>

手足口病の定点当たり報告数は、1都6県全てで5.00を超えている。

### 手足口病



平成27年 30週

		全国	関東地域	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
インフルエンザ #1	報告数	381	19	1	-	-	2	3	10	3
	定点当たり	0.08	0.01	0.01	-	-	0.01	0.01	0.02	0.01
RSウイルス感染症	報告数	554	64	-	-	1	7	7	23	26
	定点当たり	0.18	0.07	-	-	0.02	0.04	0.05	0.09	0.13
咽頭結膜熱	報告数	1,442	512	32	7	16	117	103	117	120
	定点当たり	0.46	0.54	0.43	0.15	0.28	0.72	0.77	0.45	0.59
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	5,455	1,667	119	51	85	317	310	505	280
	定点当たり	1.73	1.77	1.59	1.06	1.47	1.96	2.31	1.94	1.38
感染性胃腸炎	報告数	10,754	3,292	323	56	181	664	402	981	685
	定点当たり	3.42	3.50	4.31	1.17	3.12	4.10	3.00	3.77	3.37
水痘	報告数	1,082	413	48	10	9	79	32	115	120
	定点当たり	0.34	0.44	0.64	0.21	0.16	0.49	0.24	0.44	0.59
手足口病	報告数	29,504	12,186	499	713	737	2,942	990	3,606	2,699
	定点当たり	9.38	12.96	6.65	14.85	12.71	18.16	7.39	13.87	13.30
伝染性紅斑	報告数	2,478	897	93	44	42	222	122	234	140
	定点当たり	0.79	0.95	1.24	0.92	0.72	1.37	0.91	0.90	0.69
突発性発しん	報告数	1,746	534	35	29	27	106	70	154	113
	定点当たり	0.55	0.57	0.47	0.60	0.47	0.65	0.52	0.59	0.56
百日咳	報告数	57	11	1	1	-	3	2	3	1
	定点当たり	0.02	0.01	0.01	0.02	-	0.02	0.01	0.01	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	8,866	2,973	183	56	85	564	646	799	640
	定点当たり	2.82	3.16	2.44	1.17	1.47	3.48	4.82	3.07	3.15
流行性耳下腺炎	報告数	1,651	488	56	26	24	142	66	89	85
	定点当たり	0.52	0.52	0.75	0.54	0.41	0.88	0.49	0.34	0.42
急性出血性結膜炎	報告数	7	2	-	-	-	1	1	-	-
	定点当たり	0.01	0.01	-	-	-	0.03	0.03	-	-
流行性角結膜炎	報告数	577	194	15	4	29	43	26	26	51
	定点当たり	0.84	0.97	0.88	0.33	2.07	1.08	0.79	0.67	1.16
細菌性髄膜炎 #2	報告数	15	5	-	-	1	-	2	2	-
	定点当たり	0.03	0.06	-	-	0.13	-	0.22	0.08	-
無菌性髄膜炎	報告数	36	10	-	1	-	2	1	5	1
	定点当たり	0.08	0.12	-	0.14	-	0.20	0.11	0.20	0.10
マイコプラズマ肺炎	報告数	154	23	2	2	4	5	1	8	1
	定点当たり	0.33	0.28	0.15	0.29	0.50	0.50	0.11	0.32	0.10
クラミジア肺炎 #3	報告数	5	1	-	1	-	-	-	-	-
	定点当たり	0.01	0.01	-	0.14	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数	10	1	-	-	-	1	-	-	-
	定点当たり	0.02	0.01	-	-	-	0.10	-	-	-

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

(-0.00)



この情報は感染症法に基づく、感染症発生動向調査により、埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターの持つ病原体検査情報をまとめたものです。今月のコメント

腸管出血性大腸菌の検出数は、O157 28 検体、O26 2 検体、OUT 2 検体と先月に引き続き多く検出されています。

## ウイルス分離状況

四類感染症 平成27年8月6日現在(累計:1月~)

臨床診断名	検出月 検体数合計	5月	6月	7月	累計
		ウイルス	3	3	
E型肝炎	検体数				
	E型肝炎 検査中				
A型肝炎	検体数	1			3
	A型肝炎 検査中	1			2
重症急性 呼吸器症候群	検体数				
	SFTS 検査中				
デング熱	検体数	2	3		12
	デング 検査中	1	1		8

五類感染症 平成27年8月6日現在(累計:1月~)

臨床診断名	検出月 検体数合計	5月	6月	7月	累計
		ウイルス	65	97	
咽頭結膜熱	検体数		3	1	6
	アデノ 1				1
	アデノ 2		1		1
	検査中		2	1	3
インフルエンザ	検体数				65
	インフルエンザAH3				42
	" B				15
	" AH1pdm09				
	アデノ 3				1
	ライノ				1
	ヒトメタニューモ				3
感染性胃腸炎	検体数	10	8	10	57
	ノロ	4	2		17
	サボ				2
	アストロ	2			2
	ロタ(A)				3
	アデノ 1				1
	アデノ 2	1			1
	アデノ 40/41		2		3
	コクサッキー A10				1
	パレコ		1		1
	サイトメガロ				1
	ライノ		1		1
	検査中			8	8
	ヘルパンギーナ	検体数	1	4	3
コクサッキー A2					1
" A6			2		2
" A8					
" A10			2		2
手足口病	検体数	2	4	12	18
	コクサッキー A6	1	2		3
	" A16	1			1
	パレコ			1	1
脳炎・脳症 (四類以外)	検体数	3	6	7	52
	ヒトヘルペス 6				1
	ライノ				4
	RS				2
	単純ヘルペス 1				1
	アデノ 6		1		1
	アデノ nt				1
	インフルエンザAH3				1
コクサッキー A16		1		1	
検査中			7	7	

nt : not typed

## 五類感染症つき

臨床診断名	検出月	5月	6月	7月	累計
		検体数		6	
麻しん	麻しん				3
	ヒトパルボB19				2
	ヒトヘルペス 6				1
	ヒトヘルペス 7				1
	アデノ 31 検査中				
風しん	検体数	1	2	3	7
	風しん				1
	ヒトヘルペス 6		1		1
先天性風しん 症候群	検体数				3
	風しん 検査中				
無菌性髄膜炎	検体数		6	27	37
	ヒトヘルペス 7		1		2
	ムンプス				1
	水痘帯状疱疹		1		1
	エコー 18 検査中			3	3
流行性 角結膜炎	検体数				24
	アデノ 検査中				
流行性 耳下腺炎	検体数	2			3
	ムンプス 検査中				
その他	検体数	46	58	57	353
	コクサッキー A6	1		1	2
	コクサッキー A9				2
	コクサッキー B4		4		4
	パレコ		1		2
	アデノ 1		1		2
	アデノ 2	2	6	1	14
	アデノ 3		1		1
	単純ヘルペス 1		2		2
	ヒトヘルペス 6	4	4	1	22
	ヒトヘルペス 7	1	2		16
	インフルエンザAH3		2		6
	インフルエンザB				1
	パラインフルエンザ 1		1		2
	パラインフルエンザ 3	1	13		14
	RS				13
	ヒトメタニューモ	1			28
	ライノ	10	16	1	70
	サイトメガロ		1		8
	コロナ		2		10
ノロ				1	
ボカ	2	5	1	10	
ヒトパルボB19	1		3	5	
EB	1	1		3	
検査中			46	46	

## 細菌分離状況

平成27年8月6日現在

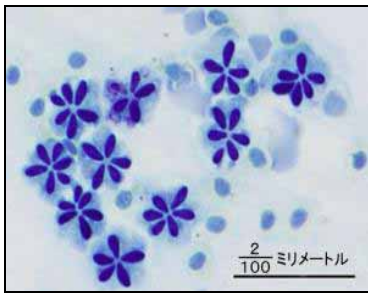
病原体名	分離月	5月	6月	7月	備考(7月分)
		赤痢菌		1	
チフス菌					
パラチフスA菌					
コレラ菌					
三類	腸管出血性大腸菌O157	1	24	28	H7(VT1&2): 5 H7(VT2): 8 H検査中(VT1&2): 7 H-(VT1): 4 H-(VT2): 1 H検査中(VT2): 3
	腸管出血性大腸菌O26	1	9	2	H検査中(VT1): 2
	腸管出血性大腸菌その他		3	2	OUT:H2(VT1): 2
	レジオネラ菌			3	Legionella pneumophila(S61): 3
四類	肺炎球菌	1	1		
	百日咳菌	1			
	VRE				
	MRSA				
	溶血性レンサ球菌	3	2	3	Streptococcus dysgalactiae subsp. equisimilis (副症型): 1 Streptococcus pyogenes T12(副症型): 1 Streptococcus pyogenes T1(溶レン菌感染症): 1
その他	1	3			

## 寄生虫性食中毒

平成 23 年、ヒラメの筋肉に寄生するクドア・セプテンブクタータという寄生虫が食中毒病因物質として新たに加わりました。クドア・セプテンブクタータは極嚢と呼ばれる構造を 6~7 個有するのが特徴です（写真 1）。本寄生虫はヒラメとイトミミズ等の環形動物との間で生活環が維持されていると考えられていますが、詳細は明らかになっていません。これまで海水魚・淡水魚から多くのクドア属が検出されていますが、現時点でヒトに対し病原性を示すことが明らかになっているのはクドア・セプテンブクタータのみです。ヒラメを喫食後、4~8 時間経過してから一過性の嘔吐と下痢を引き起こします。

アニサキスはクジラ等の海棲哺乳類の胃で成虫になる線虫です。その虫卵は糞便とともに海中に産出され、オキアミ等の甲殻類に摂取された後、第 3 期幼虫に発育します。この幼虫を宿すオキアミ等が魚介類（魚やイカ）に摂取され、ヒトはこの第 3 期幼虫が寄生する魚介類の生食により感染します。症状は魚介類を生食し 1 時間~1 日後に起こる激しい胃痛と悪心・嘔吐が特徴で、症例の大半が胃アニサキス症を呈します。また、幼虫は腸壁に侵入して腸アニサキス症を、消化管を通過して消化管外アニサキス症を引き起こすこともあります。

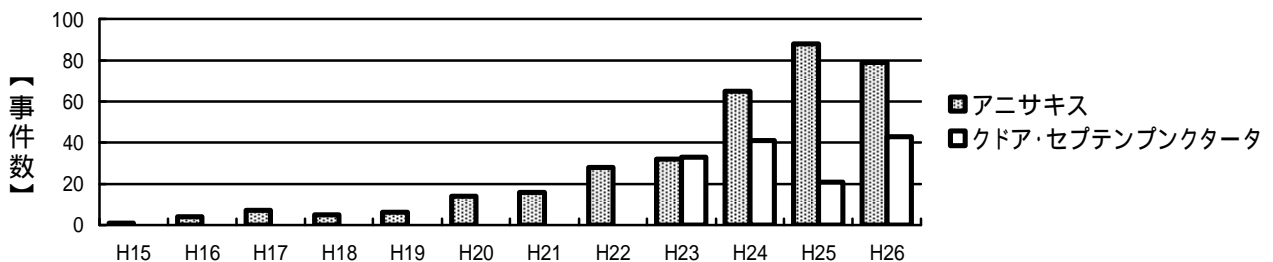
平成 26 年の病因物質別食中毒発生件数では、これら寄生虫による事件が上位を占めるまでになりました（表 1）。平成 22 年以降アニサキスやクドア・セプテンブクタータによる食中毒事件は急増しています（図 1）。寄生虫性食中毒は今後さらに注意が必要です。



【写真 1：クドア・セプテンブクタータ】  
農林水産省 HP より

【表 1：全国の食中毒発生件数 病因物質別トップ 5】

病因物質	発生件数(患者数)
カンピロバクター	306 (1,893)
ノロウイルス	293 (10,506)
アニサキス	79(79)
植物性自然毒	48(235)
クドア・セプテンブクタータ	43 (429)



【図 1：平成 15~26 年アニサキス及びクドア・セプテンブクタータによる食中毒】

総合トップ > 県政情報・統計 > 県概要 > 組織案内 > 保健医療部 > 保健医療部の地域機関 > 衛生研究所 > 感染症情報センター > 感染症の流行情報 > 感染症発生動向調査 > 感染症発生動向調査 2015年 > 感染症の流行状況 2015年 第32週

感染症発生動向調査 2015年

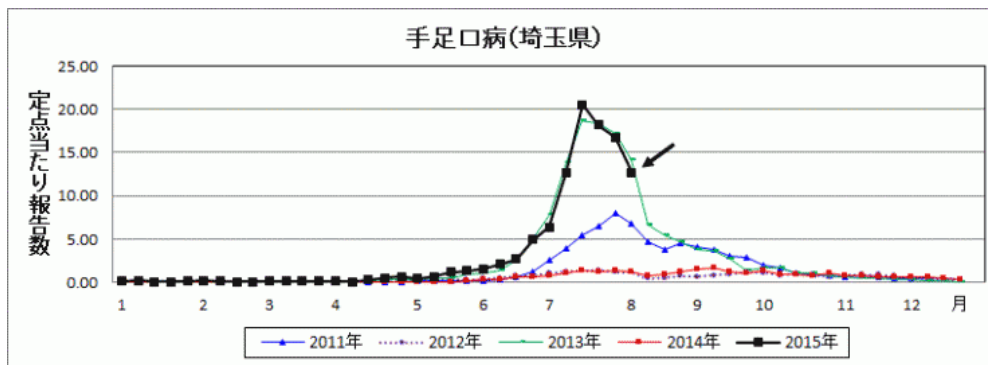
- [感染症の流行状況 2015年 第1週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第2週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第3週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第4週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第5週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第6週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第7週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第8週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第9週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第10週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第11週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第12週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第13週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第14週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第15週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第16週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第17週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第18週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第19週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第20週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第21週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第22週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第23週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第24週](#)

感染症の流行状況 2015年 第32週

2015年第32週（平成27年8月3日～8月9日）の要点 平成27年8月12日

手足口病の定点当たり報告数は、減少の傾向にありますが、依然報告数の多い状況です。外出後の手洗い・うがいとともに、十分な休養をとるよう心がけてください。また、お子さんの体調がすぐれない時は、医療機関に電話で相談の上、早目に受診してください。

- [インフルエンザに関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [麻疹に関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [風しんに関する情報はこちらをご覧ください。](#)



感染症流行状況

疾患	推移	流行状況	疾患	推移	流行状況
<a href="#">インフルエンザ</a>	→	★	<a href="#">伝染性紅斑</a>	↓	★★
<a href="#">RSウイルス感染症</a>	→	★	<a href="#">突発性発しん</a>	→	★
<a href="#">咽頭結膜熱</a>	→	★★★	<a href="#">百日咳</a>	→	★
<a href="#">A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</a>	↓	★★	<a href="#">ヘルパンギーナ</a>	↓	★★
<a href="#">感染性胃腸炎</a>	→	★★	<a href="#">流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)</a>	→	★★
<a href="#">水痘(みずぼうそう)</a>	→	★	<a href="#">急性出血性結膜炎</a>	→	★
<a href="#">手足口病</a>	→	★★★	<a href="#">流行性角結膜炎</a>	↓	★★

\*1.推移、流行状況は、県内全域の傾向です。 \*2.推移は2週間前からの傾向を示します。(→:増減無し、↑:増加、↓:減少) \*3.流行状況は今週の流行を示します。(小さい←★、★★、★★★→大きい)

疾患名をクリックすると、各疾患の流行状況のグラフがご覧いただけます。

全国の感染症発生動向状況については、国立感染症研究所のホームページ「[感染症疫学センター](http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html)」(アドレス <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>)でご覧になれます。

この情報は毎週水曜日に更新する予定です。ただし、祝日等により変更の場合もあります。



埼玉県のマスコット コバトン

お問い合わせ

保健医療部 衛生研究所 感染症疫学情報担当  
 郵便番号355-0133 埼玉県比企郡吉見町江和井410番地1  
 電話：0493-59-9325  
 ファックス：0493-59-9613

▶ お問い合わせフォーム